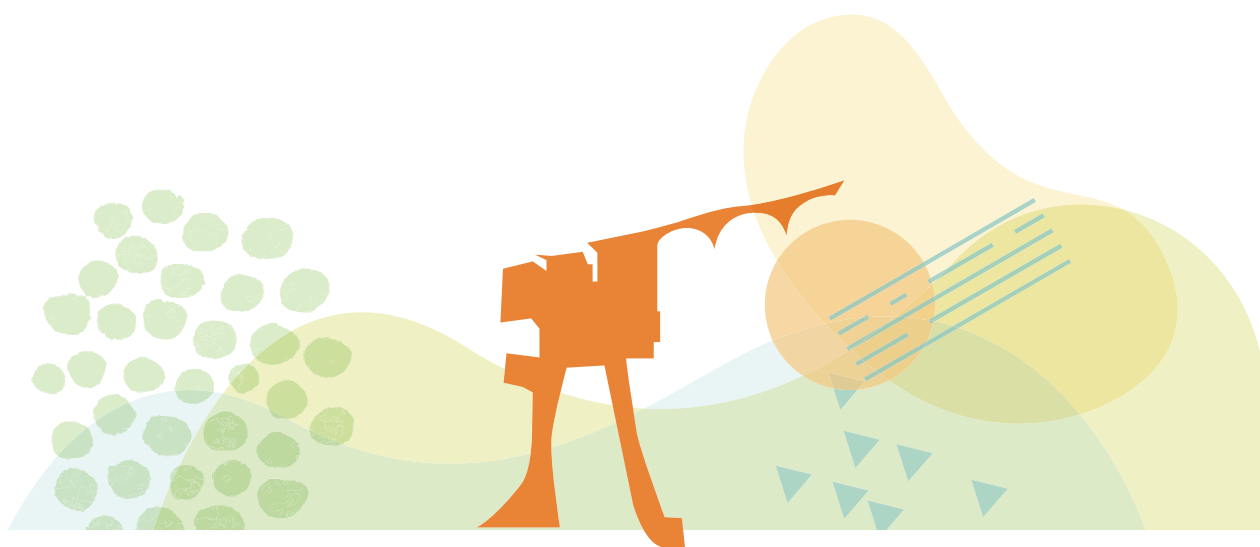


ときわ公園 活性化基本計画 (第三次)

“市民が誇れる都市公園”を
めざして



宇部市

令和4年3月

市民も企業もワクワク元気に 市民が誇れる都市公園をめざして



毛利藩の棕梨権左衛門によって造られた常盤湖、そして、湖を包みこむように広がる自然。1698年に動き出した歴史は、時代が移り行く中でも色あせることなく続いています。

緑豊かで広大な敷地を誇る「ときわ公園」は、現在、ウォーキングなどの健康づくりや四季折々の花木の自然観察ができる市民の憩いの場となり、多くの皆様に親しまれています。また、動物園や遊園地、植物館などを有する広大なフィールドでは、世界で最も歴史のある野外彫刻コンクール「UBEビエンナーレ(現代日本彫刻展)」をはじめ、一年を通じて様々なイベントも開催されるなど、本市の貴重な観光資源として、県内外から多くの観光客の方に訪れていただいています。

この素晴らしい地域資源にさらに磨きをかけ、貴重な財産として次世代につないでいくため、平成22年から「常盤公園活性化基本計画」にもとづき、ハード、ソフト両面から集客対策に取り組んできました。その結果、平成28年度からは、入園者数が70万人を超えるまでになりましたが、令和2年度には、新型コロナウイルス感染症の爆発的な流行の影響もあり、年間入園者数は55万人を割り込むまでに減少しており、新たな日常のなかにあっても、皆様にご利用いただけるような取組を進めていく必要があります。

一方、ポストコロナを見据えた新たな日常のなかでは、これまでの「市民の憩いの場」「貴重な観光資源」の2つの顔に加え、新たに「産業の創出の場」としての可能性も見出すことができました。このため、令和3年度からは、新たな産業の創出にチャレンジする「ときわ公園実証フィールド活用事業」に、取り組んでいるところです。

このたび改定する「ときわ公園活性化基本計画(第三次)」では、これらを軸として施策展開し、多様な主体との「共創」による公園づくりを通して、ときわ公園が市民の皆様に愛され、誇りを持てる都市公園になることをめざして、新たなステップを踏み出します。

結びに、本計画の策定にあたり、アンケート調査等により貴重なご意見をいただきました市民の皆様をはじめ、ご協力いただきました関係団体の皆様方に心から感謝申し上げます。

令和4年(2022年)3月

宇部市長 篠崎 圭二

ときわ公園活性化基本計画

～ 目 次 ～

第1章

ときわ公園活性化基本計画の改定にあたって

【1】改定の目的	1
【2】計画の位置づけ	2
【3】計画の期間	2

第2章

ときわ公園の現状と課題

【1】沿革	3
【2】施設と資源	4
【3】年間入園者数の推移	5
【4】市民の意見(アンケート調査)	6
【5】計画の進捗状況	9
(1)目標の達成状況	9
(2)施策の実施状況	9
【6】ときわ公園各施設共通の課題	10
(1)現状や市民アンケートから	10
(2)政策課題	10
(3)目指すべき方向性	10

第3章

ときわ公園の将来像と目標指標

【1】基本方針	11
(1) 将来像	11
(2) 目標指標	12
(3) 取組の方向性	13
【2】基本計画の概要	14
【3】施設・資源別計画	16
(1) にぎわい・観光エリア	16
■動物園・遊園地	17
■ときわミュージアム【植物館】	19
■ときわミュージアム【彫刻・UBEビエンナーレ】	21
(2) 憩いエリア	23
■花木・花いっぱい運動記念ガーデン	24
■常盤湖・周遊園路・スポーツ広場・キャンプ場	25
☆緑と花と彫刻のブレスレット構想	27
【4】新たな成長産業の創出	29
【5】集客対策	31
■イベント	31
■食とお土産品	32
■情報発信	33
■観光交流対策	34

第4章

管理運営体制

【1】収支	35
(1) 収入	35
(2) 支出	35
(3) 収支バランス	36
【2】管理運営体制	36
【3】共創による公園づくり	37
■用語解説	38